

令和3年度 公私幼保合同研修まとめ



令和３年度　公私幼保合同研修　実施一覧			
No	研修名	回数	掲載ページ
1	保育・教育内容研修会（乳児保育・教育研修会）	5	P.1～2
2	保育・教育内容研修会（保育・教育理論研修会）	11	P.2～5
3	人権保育研修会	5	P.6～7
4	特別支援教育・障がい児保育研修会	9	P.8～9
5	子どもの健康・安全研修会	7	P10～12
6	子育て支援研修会	5	P.13～14
7	衛生管理研修会	2	P.15
8	保幼小連携・接続研修会	4	P.16～17
9	就学前教育カリキュラム研修会	6	P.18～20
10	フォローアップ研修会	2	P.21
11	タイムリー研修会（自己評価）	5	P.22～23
12	施設長研修会	3	P.24
13	看護職・養護教諭研修会	2	P.25
14	地域型保育事業研修会	2	P.26
15	認可外保育施設研修会	3	P.27
計		71回	

第1回

乳児期に育つこと 育てたいこと

日 時：令和3年8月17日（火）14:30～17:00

会 場：オンライン研修（ライブ配信）

講 師：大阪大谷大学 教授 長瀬 美子

内 容：「安定的な繰り返し」「楽しいことと出会うこと」「喜びをもって獲得されること」の乳児期・乳児保育で大切にしたいことをしっかり捉える。実際の保育の写真を見ながら、発達特性をふまえることで、どんな生活と遊びが必要かを、環境や保育者との関わりを通して学んだ。

第2回

乳児のころを育てる

日 時：令和3年10月27日（水）14:30～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：大阪総合保育大学 児童保育学部 准教授 要 正子

内 容：人の心が生まれる道筋として乳児期に2度の飛躍期がある。生後2か月頃に起こる心の変化として他者への反応を予期し始め、9か月頃には、視線追従や指差し、共同注意が始まり、人ならではの自分の関心や興味を他者と共有するためのコミュニケーション能力が育つ。コロナ禍であっても「メンタルディスタンスは密に」関わり、乳児の心を育てていくことを学んだ。

第3回

0. 1. 2歳児の学びを支える環境づくり
～人的環境、物的環境、時間の環境～

日 時：令和4年2月17日（木）14:30～17:00

会 場：オンライン研修（ライブ配信）

講 師：東洋大学 ライフデザイン学部 教授 高山 静子

内 容：昭和の保育と令和の保育を比べていく中で、一斉保育から環境を通した子どもが主体的の保育へと移行してきたことに触れ、その中で子どもの学びを支えるために保育者は専門性が必要であるといえる。人的環境としての保育者は子どもと応答的な対話をし、環境を整えていき、物的環境としての手作りおもちゃの大切さや空間の確保を学び、時間の環境として一斉であることをやめること、さらに良い本の紹介やそれらの本を利用した園内研修のあり方なども学んだ。

第4回

乳児期の絵本の大切さ
～育っていくための力になる絵本について考えてみましょう～

日 時：令和4年3月8日（火）14:30～17:00

会 場：オンライン研修（ライブ配信）

講 師：学校法人三幸学園 大阪こども専門学校 講師 玄 千賀

内 容：「乳児期の育ちと絵本について」の知識や「子どもの主体性を大切にしたい読み聞かせ」における技術・態度についての学んだ。「言葉の定義」を踏まえながら「乳児期の絵本の大切さ」についてグループワークを行うことにより、受講者の普段の絵本の読み聞かせの振り返りと今後の保育の実践につながった研修であった。実際、好評な絵本の紹介もあり、受講者も絵本に向き合う機会になった。

第5回

「子ども主体の造形あそび」造形あそびを通して育みたい子どもの力
～0. 1. 2歳児編～

日 時：令和4年3月15日（火）14:30～17:00

（まん延防止等重点措置発出中のため中止）

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：造形教育研究所「こどものアトリエ」代表 村田 夕紀



第1回

遊びを通して育てる「健康な心と身体」「興味や思考」「豊かな関係」

日時：令和3年5月・11月 オンライン研修（動画研修）

講師：大阪大谷大学 教授 長瀬 美子

内容：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」【10の姿】は6年間の経験の積み重ねによって育つものである。今回は遊びという視点から「健康な心と身体」「思考力の芽生え、関心・感覚」「豊かな関係」の3つを取り上げ、実践事例を通して、内容の捉え方や保育者の役割を具体的に学んだ。

第2回

コロナ禍が続く中での質の高い保育

日時：令和3年6月8日（火）14:30～17:00

会場：オンライン研修（ライブ配信）

講師：社会福祉法人友愛福祉会おおわだ保育園 理事長
内閣府 子ども子育て本部 上席政策調査員 馬場 耕一郎

内容：コロナ禍が続く中での、園所での対応のポイント、基本的な考え方（情報に振り回されない・予防のための注意点等）を学ぶとともに、コロナ禍でありながらも、保育の質を高めていくための、健康・安全面、行事の扱い方等々の工夫の仕方を学んだ。

第3回

保育に関する研究について

日時：令和3年8月27日（金）15:00～17:00

会場：オンライン研修（ライブ配信）

講師：前大阪市立菅南幼稚園長 元大阪市立幼稚園教育研究会会長 石川 順子

内容：大阪市立幼稚園の研究の取組の紹介から、研究をする意義を考え「やってよかった」と思える研究にするにはどのように進めていけばよいのか学んだ。研究主題と設定理由、研究の方法と内容について、実際の実践記録用紙を用いながら、子どもたちの生き生きとした姿を記録検討する方法を具体的に学んだ。

第4回

砂場あそびから見る子どもの発達と保育の課題

日時：令和3年9月10日（金）14:30～17:00

会場：オンライン研修（ライブ配信）

講師：同志社女子大学 現代社会学部 教授 笠間 浩幸

内容：砂場は、近代以降の子ども観・遊び観を象徴する遊び場であり、砂で遊ばない砂遊びの時期から、砂で遊ぶ砂遊び、イメージとして言葉が広がる砂遊び、アートとしての砂遊びと発達に沿って遊びが変わってくる。そのようなことも踏まえて、保育者として「子どもを見る」「遊びを観る」「自分を見る」ことを大切に、砂遊びを展開していくことを学んだ。

第5回

砂場保育の課題と可能性

～砂場保育の充実と砂場環境改善に向けての課題と方法～

日時：令和3年12月10日（金）14:30～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：同志社女子大学 現代社会学部 教授 笠間 浩幸

内容：砂遊びに潜む子どもの発達要素として「感覚」「情緒」「身体運動」「物の操作」「言葉」「社会性」「想像と創造」「認知」「科学的態度」「自己」があげられる。砂遊びの中には、子どもたちの発育、発達の可能性がたくさん詰まっているので、それらの必要性和重要性を理解し、環境を整えて子どもの遊びを保証することを学んだ。

第6回

子どもの遊び世界と保育

日時：令和4年1月18日（火）14:30～17:00

会場：オンライン研修（ライブ配信）

講師：秋草学園短期大学 准教授 利根川 彰博

内容：「子どもの遊び」は、自発的な活動として、生きる力の基礎における生きる喜びを味わうことが大切である。そのため、大人は、子どもの思いを大切にしながら、望ましい活動に向かう援助・発想や欲求を実現するための援助が必要であることを学んだ。また、「見立て遊び」の理論的説明の講義を受け、オンラインの中で「見立て」についてグループ討議を行い、自身の子どもへの関りを振り返る機会となった。

第7回

学びの扉を開く音楽活動Ⅰ
～小学校低学年で学ぶ器楽と音楽づくり～

日 時：令和4年1月20日（木）14:30～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター／オンライン研修（ライブ配信）ハイブリット開催
講 師：関西大学 非常勤講師 内海 和夫 大阪市立新庄小学校 教諭 谷井 良子

内 容：小学校低学年の音楽授業で使用している教科書を用いながら、音楽授業を紹介。拍を感じる、拍を合わせることを目的に受講者が参加型の形で、手拍子をリズム打ちで音楽作りを行ったり、楽器を使い演奏の楽しさを体験し、楽器の鳴らし方を具体的に学んだ。ギフトタイムとしてオンライン研修の中で、講師のピアノ演奏が行われた。

第8・9回

自己肯定感を育てる運動遊び
～保育者の関わりを意識して～

日 時：令和4年2月3日（木）14:30～17:00
令和4年2月4日（金）14:30～17:00
会 場：オンライン研修（ライブ配信）
講 師：大阪青山大学 健康科学部子ども教育学科 教授 村田 トオル

内 容：子どもの主体的活動の中心となるのは「遊び」であり、そして保育理念や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」【10の姿】の土台は健康である。健康づくりの3要素(栄養・休養・運動)の「運動遊び」は、スポーツ活動の基本動作や危機回避能力だけでなく、自己肯定感や充実感等「社会的心理」を育てることを学び、運動遊びのポイント、子どもの様子を観るポイント等を実践動画を通して学んだ。

第10回

「子ども主体の造形あそび」造形あそびを通して育みたい子どもの力
～3. 4. 5歳児編～

日 時：令和4年3月9日（水）14:30～17:00
（まん延防止等重点措置発出中のため中止）
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：造形教育研究所「こどものアトリエ」代表 村田 夕紀

第11回

学びの扉を開く音楽活動Ⅱ
～小学校低学年で学ぶ歌唱と鑑賞～

日 時：令和4年3月9日（水）14:30～17:00
（まん延防止等重点措置発出中のため中止）
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：関西大学 非常勤講師 内海 和夫 大阪市立新庄小学校 教諭 谷井 良子

第1回

子どもを取り巻くコロナ禍の現状と、今、私たちが出来ること

日 時：令和3年6月22日（火）14:30～17:00
会 場：オンライン研修（ライブ配信）
講 師：大阪府子ども家庭サポーター 辻 由起子

内 容：子ども・若者・シングルマザー応援基金の取組の報告について、コロナ禍の現状を伝えながら、今、私たちができることを考える機会になる講義であった。児童虐待相談対応件数を示し、母子支援事業の受援力（他者に助けを求め早くサポートを受ける力）について知ること、サポートの際に気を付けることや必要なことや繋がり的重要性を学んだ。

第2回

子どもと共に生活すること ～虐待の視点から～

日 時：令和3年9月15日（水）14:30～17:00
会 場：オンライン研修（ライブ配信）
講 師：大阪市北部こども相談センター一時保護所長 竹家 裕美

内 容：大阪市こども相談センターに寄せられた相談件数のうち虐待の視点から、虐待件数・主な虐待者などを示し、大阪市の現在の状況を知る。変化する子どもの様子や子育て家庭をめぐる環境の変化により、虐待が疑われる子どもの特徴と虐待が疑われる保護者の特徴を示し、子どもの育ちを見守る専門職として「いつもと違う」という「気づき」の大切さについて学んだ。

第3回

気づきで子どもを救おう！ 虐待のサインと対応のポイント

日 時：令和3年11月5日（金）14:30～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：認定NPO法人児童虐待防止協会 大阪市事業登録スーパーバイザー 瀧本 宏子

内 容：コロナ禍での出産・育児の不安やテレワーク等により、休校・休園で親子関係がしんどくなり、「児童虐待」が増えている。「児童虐待」と「しつけ」「体罰」の違いや「虐待」に気付くためのポイント、「虐待」かもしれないポイントを見つけた時の、子どもや保護者への接し方や記録を取り方、関係機関への連絡等の対応を学んだ。

第4回

子どもの貧困問題を考える ～子どもの生き方に関わって～

日 時：令和3年12月3日（金）14:30～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：大阪聖徳学園 理事 教育参与 西林 幸三郎

内 容：講師が今まで出会った子ども達や被害者になった子どもたちの事例をあげて、貧困の中で起こる虐待やヤングケアラーについて学び、就学前教育・保育に携わる者が、子どもの自己肯定感を育むことの大切さを知る。また保護者を加害者にならないために子どもの養育されている背景をしっかりと育むことの大切さを知る「虐待？」と思われるときは職員間で共有し、地域・関係機関との連携をもつことの大切さを学んだ。

第5回

子どもの虐待 ～身体発達と心の関係について～

日 時：令和4年1月13日（木）14:30～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター／オンライン研修（ライブ配信）ハイブリット開催
講 師：大阪青山大学 健康科学部子ども教育学科 学科長 戸松 玲子

内 容：虐待の概念、発生の要因、被虐待児が受ける精神的・身体的影響や行動や発育に表れる現象について学んだ。また保育者は虐待発見しやすい立場にあるが、一人で抱え込まない、できないことは専門家に頼るなど、リフレーミングで子どもたちに言葉かける等保育者として虐待かと気付いた時に子どもや保護者に対してすべきこと、してはいけないことについて学んだ。



第1・2回

支援を要する子どもの理解と支援 ～子ども理解から保護者支援まで～

日 時：令和3年6月24日（木）14:30～17:00

令和3年9月13日（月）14:30～17:00

会 場：オンライン研修（ライブ配信）

講 師：株式会社こども未来創造舎 代表取締役社長 西原 弘

内 容：幼児期の子どもたちの姿から、発達障がいの特性を理解する。個々に合った適切な支援方法において、成長の視点から、できない時の援助など望ましい行動に目を向け、ほめるタイミングやポイントについて具体例に基づき学んだ。また保護者への働きかけでは、保護者の思いを理解し共感することの大切さを学んだ。

第3・4回

子どもと笑顔でかかわるための感覚のおはなし ～そうだったのか!! 理由が分かると対応が見えてくる!～

日 時：令和3年11月2日（火）14:30～17:00

令和3年11月30日（火）14:30～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：子どもの発達相談室 あおいとり 藤川 典子

内 容：感覚には「五感」と「前庭感覚」「固有受容感覚」があり、それぞれの感覚について具体的な説明とそのように感覚の過敏さからくる問題を、事例をあげながらの学んでいった。また問題のある子どもへの指示や対応の仕方を示し、実践に結び付くことのできる内容であった。更に「前庭感覚」と「固有受容感覚」の筋緊張の低さを高める遊びを通した支援紹介があり、保育内容の学びにもなった。

第5回

発達が気になる子どもの体と手先を育てる遊びと工夫

日 時：令和4年1月31日（月）14:30～17:00

会 場：オンライン研修（ライブ配信）

講 師：兵庫医療大学リハビリテーション学部 作業療法学科 大学院 医療科学研究科 准教授 有吉 正則

内 容：生後12か月頃までに両手・両足を使った基本となる感覚系が育ち、左右の体のバランスについて学んだ。成長過程の正しい理解と共に丁寧に子どもの姿を見ることが、その子にあった適切な支援を行うことが大切。姿勢と運動の発達は体感を育てることにつながるため、日常生活や保育の中で意識して取り入れるポイントを学んだ。

第6回

発達が気になる子どもの理解と日常生活場面での関わりの配慮

日時：令和4年2月25日（金）14:30～17:00

会場：オンライン研修（ライブ配信）

講師：武庫川女子大学 文学部心理・社会福祉学科 教授 新澤 伸子

内容：発達が気になる子どもについてということで、気づきからの配慮や支援の重要性について学んだ。子どもの視点から何に困っているのかを考え、子どもの行動の背景を冰山モデルで考える方法を学んだ。また、事例を通して具体的に子どもの支援方法について学んだ。

第7回

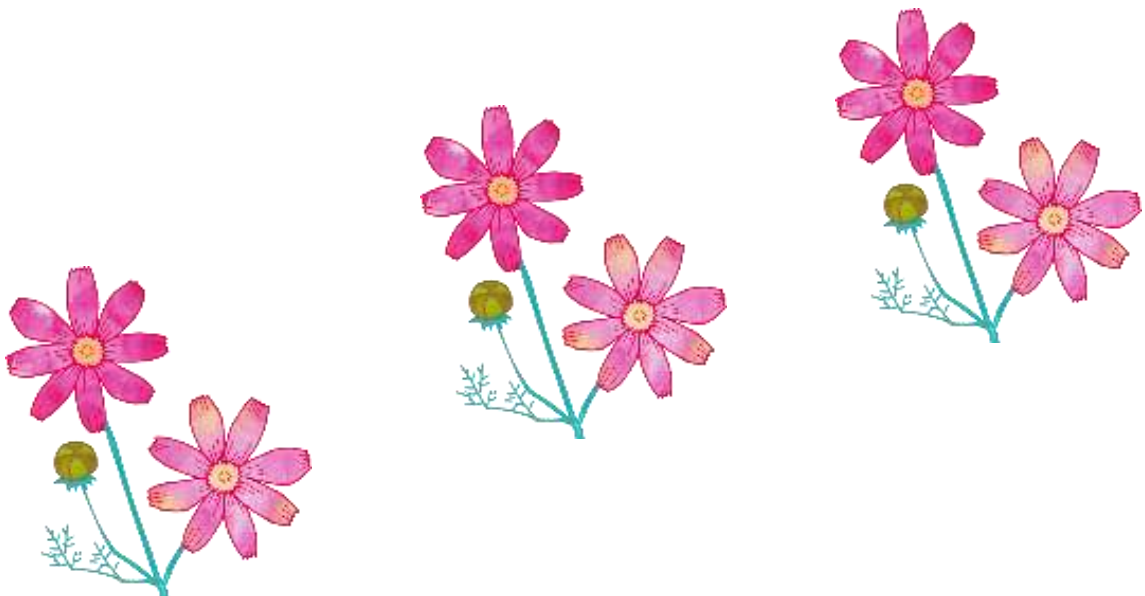
ちょっと気になる子の理解と幼児期の過ごし方 ～小学生をたのしむために～

日時：令和4年3月11日（金）14:30～17:00

会場：オンライン研修（ライブ配信）

講師：大阪市更生療育センター 作業療法士 公認心理師 特別支援教育士 布市 敦子

内容：ちょっと気になる行動をとる子どもの理解するために、子どもを見る視点と、保育所等への支援の実際について学んだ。小学校につながる遊びと環境のポイントとして、①からだ育てのポイント②からだを育てる遊び③体幹や手指発達を促す座位④手指の発達を促す遊びについて学んだ。



第1回

就学前施設における食物アレルギーとその対応

日時：令和3年5月 オンライン研修（動画配信）

講師：大阪府済生会中津病院 小児科、免疫・アレルギーセンター
副部長 平口 雪子

内容：食物アレルギーの定義・症状・予後・診断について学んだ。また集団における対応として、対応の原則や防止法についてふれ、さらに緊急時の対応やエピペンについてシュミレーションの必要性について学んだ。

第2回

けいれん・てんかんの正しい知識と救急対応について

日時：令和3年5月31日（月）14:30～17:00

会場：オンライン研修（ライブ配信）

講師：大阪市立総合医療センター小児科神経内科 医長 九鬼 一郎

内容：熱性けいれんとてんかんの違いや関係、症状についてなど、実際の映像を見ながら、適切な発作の救急対応を学んだ。さらに日常生活で気をつけるポイントや発作時に落ち着いて行える対応について学んだ。

第3回

医療的ケアを必要とする児童の、保育施設での受け入れにおける理解と対応について

日時：令和3年9月6日（月）15:00～17:00

会場：オンライン研修（ライブ配信）

講師：こども青少年局保育所運営課 障がい児保育担当課長代理 伊達裕佳子

内容：「大阪市立保育所（公設置公営）における医療的ケア児受入れに関するガイドライン」が策定された。医療的ケア児が保育所利用の申し込みする際の流れと手続き、医療的ケア実施体制、集団保育での配慮、関係機関との連携等、児童の保育施設での受入れにおける理解と対応について、ガイドラインを基に学んだ。医療的ケア児を受け入れる際の物品の管理・引継ぎ・実際の手技等は写真での説明により理解を深める。

第4回

**なぜ保育事故は起こるのか？
保育者の安全意識を高め事故を防ぐ**

日 時：令和3年10月・11月 オンライン研修（ライブ配信）

講 師：大阪大学大学院 人間科学研究科 安全行動学研究分野 特任研究員 岡 真裕美

内 容：保育施設で起きた具体的な事例を基に保育の中の危険性、事故が起こるメカニズムを知り、過去の事例を通し、それらを回避するための職員体制・安全教育・ヒヤリハットの共有・職員間のコミュニケーション等について学んだ。また子どもの特性を知り、子どもに安全をどう教えるかについても具体的な事例を聞いて学んだ。

第5回

**なぜ保育事故は起こるのか？
保育者の安全意識を高め事故を防ぐ**

日 時：令和3年10月21日（木）14:30～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：大阪大学大学院 人間科学研究科 安全行動学研究分野 特任研究員 岡 真裕美

内 容：第4回のオンライン研修の内容に加えて、現場の事故事例や課題から。予防策を考えることについて学んだ。

第6回

**学校等欠席者・感染症情報システムを活用した
具体的な感染症対策について**

日 時：令和3年12月22日（水）14:30～17:00

会 場：オンライン研修（ライブ配信）

講 師：国立感染症研究所 感染症疫学センター主任研究官 菅原 民江

内 容：保育園における感染症対策として日々の衛生管理やサーベランスの活用について学んだ。また新型コロナウイルス感染症について園内で発生した場合の心構えと準備等を知り、具体的な対策・対応の見直しと正しい知識を学んだ。

第7回

**考えてみよう！発災から避難まで
自然災害から生命を守るために日常からできることを考え、
防災・減災の意識を高める**

日 時：令和4年2月15日（火）14:30～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター オンラインライブ配信

講 師：大阪大谷大学 教授 地下 まゆみ

内 容：「相手（災害）を知る」「発災から避難までを考える 子どもに必要な力とは」の2つのテーマに沿い、今まで実際に起きた地震や土砂災害の映像も見ながら自然災害による被害の実態を学んだ。防災教育では一人ひとりが命を守るために考えて行動する自分の力について学び、保育現場での防災教育について改めて考えるきっかけになった。



第1回

保護者支援をさらに深める ～精神保健福祉の視点とかわりかた～

日 時：令和3年9月3日（金）14:30～17:00

会 場：オンライン研修（ライブ配信）

講 師：大阪人間科学大学 人間科学部 社会福祉学科 准教授 吉池 毅志

内 容：子どもたちが、悩み・弱み・痛み・症状を話することができる社会が求められ、保護者もまた、地域での多様な支援が必要であることを知る。精神保健福祉の視点から子どもや大人、支援者が会える困りごとについてセルフケアとサポートの方法を学んだ。

第2・3回

“依存”しながら“自立”する!?『イヤイヤ期』の子どもの心 ー心が育つ道筋への理解を深め、子どもの心、保護者の心に寄り添うー

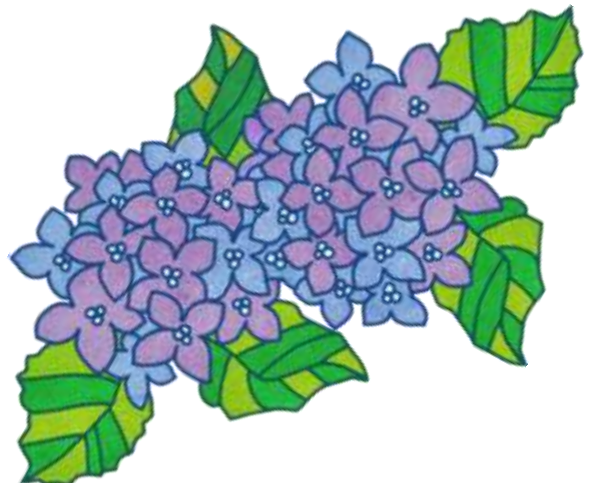
日 時：令和3年9月24日（金）14:30～17:00

令和3年10月29日（金）14:30～17:00

会 場：オンライン研修（ライブ配信）

講 師：聖家族の家 臨床心理士・公認心理師 川岸 育子

内 容：心が育つ道筋として、生まれてから最初の1年間は養育者に全面的に依存する時期なので、赤ちゃんに対して期待して働きかける様々な行動こそが、赤ちゃんが発達していくことを支える営みとなることを学んだ。また、その後「理想（したいこと）と現実（できること）」の間に揺れる葛藤の経験が、自我の壁を強くするので、自我の育ちを見守り、子どもの「困った」を理解していくことが大切だと学んだ。



第4回

支援を要する保護者の理解と対応について

日時：令和3年11月26日（金）14:30～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪府教育庁 スクールソーシャルワーカー 橋本 めぐみ

内容：知的障がいをもつ保護者への対応やきになる保護者の行動分析など、具体例から対応法を学んだ。また、対応の困難は保護者の事例を通し、対応において気を付けるおくこと等学んだ。

第5回

保育者の「気づき」から子どもの命を守る ～子ども・保護者へのかかわり～

日時：令和4年12月23日（木）14:30～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：関西学院大学 教育学部 大学院教育学研究科 教授 日浦 直美

内容：現代家族と子育て環境の実態から、様々な子育て不安をかき立てる要因を具体的に知った。保育者の専門性を活かした子育て支援が求められていることから、不適切なかわわりと子どもの言動や保護者の言動を理解し、保育所の役割と課題について学んだ。



第1、2回

食中毒の予防について

日 時：令和3年7月7日（木）15:30～17:00
令和3年8月4日（水）15:30～17:00

会 場：オンライン研修（ライブ配信）

講 師：大阪市保健所西部生活衛生監視事務所 食品衛生監視員 今井 泰司
大阪市保健所北部生活衛生監視事務所 食品衛生監視員 国近 百華

内 容：食中毒とは、微生物や有毒・有害物質の付着している食品を食べることにより起こる健康被害であることを知り、その中から、カンピロバクター・ノロウイルス・アニサキス症の症状、治療、予防について学んだ。またウエルシュ菌食中毒・ボツリヌス菌食中毒の症状、予防についても学んだ。さらに薬用せっけんを用いた手洗いの重要性や調乳に際しての注意点や大量調理瀬節衛生管理マニュアル（HACCP）の考えを取り入れた衛生管理等やHACCPに沿った衛生管理について学んだ。



第1回

子どもの視点から捉える保幼小連携・接続

日時：令和3年6月21日（月）15:00～17:00

会場：オンライン研修（ライブ配信）

講師：関西国際大学 准教授 棕田 善之

内容：3ブロックの「保幼小連携・接続」の取組報告の発表から幼児教育の重要性や社会で求められている力について学んだ。また、今なぜ保幼小連携・接続なのかを考え、子どもの視点から連携・接続を捉える必要性について考えることができた。

第2回

学びをつなぐ保幼小連携 ～幼児期の体験と意欲を育む実践～

日時：令和3年8月31日（火）15:00～17:00

会場：オンライン研修（ライブ配信）

講師：兵庫教育大学 准教授 鈴木 正敏

内容：コロナ禍で交流活動に制限がかかっているが、基本は一人一人に子どもの姿を、保育者、教師で共通理解することが重要であり、1年生はゼロからのスタートではないことに留意し、子どもの体験を活かし、就学前施設と小学校の両方で、主体的、対話的で深い学びを実現できるよう、たつの市の実践例（スタートカリキュラム）も参考に学ぶことができた。



第3回

子どもの学び・育ちをつなぐ ～「連携・接続」の取組を通して～

日 時：令和3年11月8日（月）15:30～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター／オンライン研修（ライブ配信）ハイブリット開催
（講義）講堂とオンライン研修（ライブ配信）／（交流会）研修室1・2
講 師：大阪市保育・幼児教育センター所長 阪口 正治

内 容：子どもたちの学び・育ちは「資質・能力の3つの柱」によってつながり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい」【10の姿】を共有することで円滑に接続されていくことを学んだ。また保育・幼児教育センターの研究・研修・冊子の発行・状況調査等の取組を通して、連携・接続の必要性、子どもの学び、育ちをつなぐ大切さを学んだ。さらにそれらの話を受けグループワークを通して各施設の取組状況や課題を出し合い、今後の方向性を共有した。

第4回

特別支援の視点から、保幼小連携・接続を考える ～乳幼児期から児童期の発達の課題を踏まえて～

日 時：令和4年1月14日（金）14:30～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：日本福祉大学 教授 小野 尚香
内 容：乳幼児期から児童期の発達課題である愛着形成の大切さを学んだ。幼児期は愛着形成から世界が広がり自己と他者の関係性における共感や言語発達などが育まれる。そのことを踏まえ個別の支援計画を作成し、小学校につなげることも大事であるということを学んだ。



第1回

就学前教育カリキュラムパイロット園所(令和2年度実施園所) 実践研究報告会

日 時：令和3年5月10日(月) 14:30～17:00

会 場：オンライン研修(ライブ配信)

発表園所：大阪市立生魂幼稚園

テーマ：身近な環境に興味や関心をもって関わり、「やってみよう」「もっとしたい」と、意欲を高め、主体的に活動する幼児を育てる指導のあり方を考える
～就学前教育カリキュラムを活用して～

指導講評：兵庫教育大学 准教授 鈴木 正敏

発表園所：大阪市立粉浜幼稚園

テーマ：かいたりつくったりする遊びを通して、心をはずませ、主体的に遊ぶ子どもを育てるための指導のあり方を考える
～就学前教育カリキュラムを活用して～

指導講評：常磐会短期大学 専任講師 輿石 由美子

第2回

就学前教育カリキュラム園所(令和2年度実施園所) 実践研究報告会

日 時：令和3年5月14日(金) 14:00～17:00

会 場：オンライン研修(ライブ配信)

発表園所：学校法人森岡学園 認定こども園 住の江幼稚園

テーマ：造形遊びを通して、友だちとの関わりや感じたことを表現する楽しさの育ちを考える

指導講評：関西学院大学 教授 栗山 誠

発表園所：学校法人常磐会学園 認定こども園 常磐会短期大学附属常磐会幼稚園

テーマ：行事を通して育つこと、行事をしなくても育てられるもの

指導講師：常磐会短期大学 教授 卜田 真一郎

発表園所：社会福祉法人美咲会 あすか保育園

テーマ：遊びを通して、友達との関わりを深めるための、指導者・保育者の視点や適切な関わり方を考える

指導講師：常磐会短期大学 教授 卜田 真一郎

第3回

就学前教育カリキュラム園所(令和2年度実施園所) 実践研究報告会

日 時：令和3年5月17日(月) 14:00～17:00

会 場：オンライン研修(ライブ配信)

発表園所：大阪市立茨田第1保育所

テーマ：生活や遊びの中で、一人ひとりが安心して自己発揮できる保育の環境を考える

指導講評：東大阪大学 学長 教授 吉岡 眞知子

発表園所：大阪市立野田保育所

テーマ：「子どもの心の育ちを育む指導者・保育者の援助を考える」

生きる力につながる心の育ちが、どのような場面や、どのような働きかけで育まれるのか考察する

指導講師：東大阪大学 学長 教授 吉岡 眞知子

発表園所：社会福祉法人聖徳会 天王寺駅前おおぞら保育園

テーマ：子どもたちが自ら関心をもって取り組むための指導者・保育者の働きかけを考える

～子どもたちの主体性を育むために～

指導講師：東大阪大学 学長 教授 吉岡 眞知子

第4回

就学前教育カリキュラム【基礎編】

①就学前教育カリキュラムについて②「知・徳・体」について③ワークショップ(事例を通して)

日 時：令和3年8月5日(木) 14:30～17:00

会 場：オンライン研修(ライブ配信)

講 師：大阪市保育・幼児教育センター担当係長 中田 妙子・常塚 裕美子

内 容：就学前教育カリキュラムの本編、参考事例集の内容や見方について知り、さらに「知・徳・体」をバランスよく総合的に育むことについて、事例、ワークを通して各自が考えると共に参加者同士が意見交流することにより、さらに多様な視点から子どもの姿や育ちを捉える機会になった。



第5回

「保育者の専門性をより深めるために」 ～就学前教育カリキュラムの個性的活用～

日 時：令和3年10月18日（月）14:30～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：大阪教育大学 総合教育系 教授 戸田 有一

内 容：公立幼稚園、保育所2園所の就学前教育カリキュラム活用の報告により、活用実践からの成果を知り、新たな活用の仕方を学んだ。メンターを活用し参加者が自由に意見を述べる事が出来る等共有することで学びにつながった。

第6回

就学前教育カリキュラム【活用編】

I 就学前教育カリキュラムについて II ワークショップ(子どもの育ちを捉えて発信する)

日 時：令和3年11月10日（水）14:30～17:00

会 場：住吉区民センター・大ホール

講 師：大阪市保育・幼児教育センター担当係長 瀬川 まき子・満田 菜穂子

内 容：就学前教育カリキュラムの内容と特徴について説明を聞いたのち、ワークを通して子どもの姿から「知・徳・体」の視点で捉え、教育的意図をもった働きかけについて考えた。さらにそれを保護者には発信していくうえでの工夫やポイントなど学んだ。



第1回

子どもの育ちや思いを振り返ってみましょう ～初めての保育環境、久しぶりの職場復帰での不安を少しでも和らげるために～

日時：令和3年6月29日（火）14:30～17:00

会場：オンライン研修（ライブ配信）

講師：大阪市保育・幼児教育センター 研修・企画担当課長代理 永谷 小百合

内容：1.子どもの育ちについて 2.子どもの思いについて 3.振り返る の3点の内容を事例を通し発達のだんすや発達段階を踏まえ、事例や映像から、子どもの育ちや思いを振り返り考えてみるというワークを行った。ワークの中で受講者の意見交流を通し、多様な視点から学ぶことができた。

第2回

「日常の保育の中での子どもの主体性について考えてみましょう」 ～園でのあたりまえ、自分のあたりまえを振り返る～

日時：令和3年12月16日（木）14:30～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：大阪市保育・幼児教育センター 研修・企画担当課長代理 永谷 小百合

内容：現在の保育を取り巻く情勢の変化と、「子どもが主体の保育」が保育の質を考えるうえで基盤になるということを学んだ。また、保育の質の向上を図るために、園所内研修のあり方、保育の振り返りの大切さ等を、ワークシートを活用しグループワークを通して学んだ。



第1回

「わたしのせんそうたいけん」 ～戦争について学びを深め、平和について考える～

日 時：令和3年7月28日（水）14:30～17:00
（まん延防止等重点措置発出中のため中止）
会 場：大阪市保育・幼児教育センター
講 師：「国学考」有志の会 平和教育語り部 秋山 美代子

第2回

保育の自己評価について －育ち合いのサイクルと同僚性－

日 時：令和3年9月28日（火）14:30～17:00
会 場：オンライン研修（ライブ配信）
講 師：鳴門教育大学附属幼稚園 園長 教職大学院教職実践 教授 佐々木 晃

内 容：幼稚園の園長として、実際の子どもたちの育ちと教員の指導を振り返り自己評価から研究過程・成果を示しながら、育ち合いのサイクルと同僚性について学んだ。保育の自己評価は何のために行うのか、目標を立てる時のポイントは何かを知り、子どもの発達の特徴と三法令の改定から育ちを見取るなど、指導者に求められる視点を論理的に学ぶことで、自己評価の深い学びになった。

第3回

保育・教育の自己評価 －子どもの声を聴く実践のプロセス－

日 時：令和3年11月16日（火）14:30～17:00
会 場：大阪市保育・幼児教育センター／オンライン研修（ライブ配信）ハイブリット開催
講 師：香川大学 准教授 松井 剛太

内 容：「保育所の自己評価ガイドライン」（厚労省）・「幼児理解に基づいた評価」（文科省）が保育・教育の自己評価の活用として紹介された。幼児理解とは、子どもの声（子ども自身が発する言葉にとどまらず）を聴き入れ、保育を見直すなど対話につなげることであることを学んだ。記録と対話がポイントであり、記録の方法の紹介や保育カンファレンスの大切さ、自己評価の在り方を事例を基に学んだ。

第4回

《認可外保育施設対象》就学前教育カリキュラム研修会 ①就学前教育カリキュラムについて ②ワークショップ(事例を通して)

日 時：令和3年11月25日(木) 14:30～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：大阪市保育・幼児教育センター担当係長 常塚 裕美子 中田 妙子

内 容：認可外保育施設の教職員を対象に、①就学前教育カリキュラムの本編、参考事例集、概要版の内容や見方についての説明、②「知・徳・体」をバランスよく総合的に育むことについてワークショップを通して、意見交流し、自分とは違う子どもの捉え方に気づき、就学前教育カリキュラムの活用について学んだ。

第5回

「ヤングケアラーの現状と家族支援」

日 時：令和4年3月14日(月) 14:30～17:00

(まん延防止等重点措置発出中のため中止)

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：スクールソーシャルワーカー 橋本 めぐみ



第1回

保育の自己評価～子ども理解から要録へ～

日時：令和3年7月15日（木）14:30～17:00

会場：オンライン研修（ライブ配信）

講師：大阪総合保育大学 大学院教授・学長 大方 美香

内容：子どもの主体性とは、「もう一回やりたい！」という気持ちになる活動であり、表出する姿は一緒であっても一人ひとりの育ちは違う。そのため、記録をとることで、保育・教育者が自己評価（振り返り）することが大切であることを学んだ。子ども理解とは子どもの魅力を見つけることであり、就学の懸け橋となるスタートカリキュラムを通して、参考とされる要録の意義、内容、書き方についても学んだ。

第2回

保育の質の向上に向けた組織的な取り組みと危機管理意識の強化

日時：令和3年10月5日（火）14:30～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター／オンライン研修（ライブ配信）ハイブリット開催

講師：神戸松陰女子学院大学 人間科学子ども発達学科 教授 寺見 陽子

内容：保育の質を高めることと事故を起こさないことを両輪に行うことが大事であり、地域の子どもにも対応可能な保育計画を立てPDCAサイクルで保育を行う必要性を知る。保育の質を上げるために、組織的な取り組みとして、保育内容を共通理解をしたり、園内研修や公開保育を行い、保育カンファレンス等をする。また、振り返り・評価をする場合は、すべてを文字化して残すことが大切であることを学んだ。

第3回

保育者の保育の質向上に向けた業務負担軽減と効率化について

日時：令和3年12月8日（水）14:30～17:00

会場：大阪市保育・幼児教育センター

講師：社会福祉法人友愛福祉会おおわだ保育園 理事長
内閣府子ども子育て本部 上席政策調査員 馬場 耕一郎

内容：世代の変化により、保育士の業務負担が増し、保育士の働き方改革の必要性が求められている。「保育の質」とは、何かを確認し、保育の質を保証し実践するために労働環境が大きく影響していることを事例を基に学んだ。職場で仕事を可視化するなど共有し、業務負担軽減と効率化を実践していくことが、次世代に向けた育成につながることを学んだ。

第1回

就学前施設における新型コロナウイルス感染症の対応について

日 時：令和3年10月7日（木）14:30～17:00

会 場：オンライン研修（ライブ配信）

講 師：済生会中津病院 臨床教育部長 感染管理室長 安井 良則

内 容：講師の研究のデーターに基づき、インフルエンザ・RSウイルス感染症・手足口病等の感染症の現状を紹介。新型コロナウイルス感染症の患者発生動向・年代別陽性者の割合・クラスター状況等をデーターにより理解を深める。変異株による5波での、ワクチン、治療薬・感染経路・小児の特徴等の講義の中で、今後の動向を学んだ。さらに「保育現場のための新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン」の紹介をする。

第2回

保育施設等における新型コロナウイルス感染症の具体的な対策について

日 時：令和4年3月22日（火）14:30～17:00

会 場：オンライン研修（ライブ配信）

講 師：保健所医務主幹兼平野区役所医務主幹 こども青少年局保育施策部医務主幹
健康局大阪市保健所管理課 八木 敬子

内 容：新型コロナウイルス感染症の第1波から第6波までの流れや、現在の第6波の特性や状況、インフルエンザとの比較から、感染拡大予防の基本としての飛沫予防対策、接触予防策、定期的な換気、人と人の距離、体調不良時の対応等を学んだ。またグループワークで保育中の具体的な感染対策や子どもたちの健康教育を討議し、各園所での状況等の情報交換を行った。



第1回

コロナ禍の中で育ち、つながりを大切にする保育

日 時：令和3年11月11日（木）14:30～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：大阪市小規模保育所 はらっぱ舎 AIAI園長 山崎秀子

内 容：昨年からのコロナ禍の中で、中止した行事や工夫したり内容を変更したりした保育など、保護者に理解を得ながら進めていることが参考となった。また子どもの育ちを保证するための職員間の連携が大切ということを学んだ。

第2回

絵本の読み聞かせテクニック

日 時：令和4年1月28日（金）14:30～17:00

（まん延防止等重点措置発出中のため中止）

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：フリーアナウンサー 叶 桂子



第1回

保育の質と危機管理意識の向上に向けて ～誤嚥事故を踏まえて～

日 時：令和3年9月9日（木）14:30～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター（オンラインライブ配信）

講 師：元常磐会短期大学 教授 堀 千代

内 容：過去に起きた就学前施設の重大事故から、事故発生時の状況や事故原因と課題を知り、再発防止のために「危機管理意識」「保育の質」の向上の必要性を学んだ。個人の意識、職員の資質の向上が「保育の質の向上」に繋がることから目の前の子どもをしっかりと見て、何をすべきかを考え、記録を取り振り返ることの大切さを学んだ。

第2回

自己肯定感を育てる運動遊び ～保育者の関わりを意識して～

日 時：令和3年10月8日（金）14:30～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：大阪青山大学 健康科学部子ども教育学科 教授 村田 トオル

内 容：コロナ禍で運動不足になり、より「健康」に目が向くようになった。子どもが主体的に運動遊びに取組み楽しむためには、保育者が遊びを知らないと「させられる」になってしまう。保育者も一緒に楽しみ、子どもが没頭できる遊びを実際体験し、自己肯定感等の社会的心理が育ち、意欲「やる気」につながることを学んだ。

第3回

乳児からの人権保育 ～三重県の取り組みから～

日 時：令和3年12月9日（木）14:30～17:00

会 場：大阪市保育・幼児教育センター

講 師：鈴鹿大学短期大学部 教授 長澤 貴

内 容：乳児からの人権保育は教えるものではなく、人権感覚（愛情）をもって育てられることや愛着形成を作っていくなど大切にされた経験から育っていく。共感と同感とは違いがあり、個性・違いをケアリング的な関わり（背景に心を砕く）で認められる大切さを保育の場面の事例を基に、保育の振り返りをする。

